

科目名	心理学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	池辺 陽子
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	医療従事者として患者の心や治療者の心の動きを理解するために必要な、心理学の 基本的な考え方と基礎知識を習得する。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				知覚と認知のプロセスを説明できる。	
	○	○				記憶と学習のプロセスを説明できる。	
	○	○				人がどのように動機づけられるのか説明することができる。	
	○	○				人の心の動きに影響する対人的、社会的状況を説明できる。	
	○	○				カウンセリング技法についてロジャースの理論を理解し、医療従事者として必要な態度を知る。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: イラストレート 心理学入門 誠信書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	心理学とは 授業の進め方				授業に該当する教科書の部分について復習	
	2	第1章 知覚と認知の心理				授業に該当する教科書の部分について復習	
	3	第2章 感情と情緒の心理				授業に該当する教科書の部分について復習	
	4	第3章 欲求と動機の心理 — 生理的欲求				授業に該当する教科書の部分について復習	
	5	欲求と動機の心理 — 心理的欲求				授業に該当する教科書の部分について復習	
	6	第4章 学習と記憶の心理 — 学習				授業に該当する教科書の部分について復習	
	7	学 習と記憶の心理 — 記憶				授業に該当する教科書の部分について復習	
	8	第5章 性格と気質の心理 — 類型論と特性論				授業に該当する教科書の部分について復習	
	9	性 格と気質の心理 — 性格検査法				授業に該当する教科書の部分について復習	
	10	第6章 無意識と深層の心理 — フロイト				授業に該当する教科書の部分について復習	
	11	第6章 無意識と深層の心理 — アドラー・ユング				授業に該当する教科書の部分について復習	
	12	カ ウンセリングマインド — ロジャース				授業に該当する教科書の部分について復習	
	13	第8章 自 己と対人の心理				授業に該当する教科書の部分について復習	
	14	第9章 社会と組織の心理				授業に該当する教科書の部分について復習	
	15	まとめ					
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				80%
	宿題・レポート	○	○				20%
履修上の注意	国家試験過去問題に目を通し、重要箇所を理解した上で授業に臨むこと。その上で、医療従事者として心理学について更なる理解を深めることが望ましい。						

科目名	倫理学								
科目名(英)	Ethics								
単位数	2		時間数	30時間		担当者	土持 貴志		
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 1年								
授業概要	最初に生命倫理学における四つの基本原理を、倫理学史の観点から学習する。その後、人工妊娠中絶や脳死臓器移植、安楽死といった各論に移る。各講義の前半では、問題の概要とこれまでなされてきた議論を解説する。後半では、グループディスカッションを通じて、自らの意見の構築を目指す。								
授業形式	講義：	○	演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
		○				倫理学の基本的な知識を獲得し、倫理学とはどのような学問かを他者に説明できる。			
	○					ただひとつの答えが無いような状況において自らの意見を表明し、その根拠から説明できる。			
				○		他者と議論を行うことで、自らの意見を修正し洗練させることができる。			
	○					自らの意見を文章の形で表現できる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書：波多江伸子、『考えよう！生と死のこと』、木更書、2016年 参考文献：田中正人『哲学用語図鑑』、プレジデント社、2015年 ジュリアン・パジーニ『100の思考実験』、紀伊國屋書店、2012年 赤林朗編『入門・医療倫理Ⅱ』、勤草書房、2007年 ジュリアン・パジーニ『ビッグクエスチョンズ 倫理』、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2015年								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	倫理学とは何か				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	2	生命倫理学の基礎－生命倫理学の基本四原理①				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	3	生命倫理学の基礎－生命倫理学の基本四原理②				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	4	生命倫理学の基礎－医療の場にはどんな倫理的問題があるのか				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	5	生殖補助医療の問題－配偶子提供は親を救う技術か？不幸な子供を作る技術か？				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	6	生殖補助医療の問題－代理母は当事者間の同意のみで正当化されるか？				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	7	人工妊娠中絶の問題－中絶は胎児に対する殺人か？				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	8	人工妊娠中絶の問題－親には子供を選ぶ権利はあるか？				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	9	命が誕生する場面での倫理学的問題 まとめ				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	10	脳死と臓器移植の問題－脳死者はもう死んでいるのか？まだ生きているのか？				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	11	脳死と臓器移植の問題－脳死者から臓器摘出することは許されるのか？				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	12	安楽死と尊厳死の問題－一人には死ぬ権利はあるか？				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	13	安楽死と尊厳死の問題－安楽死が許される社会はどんな社会なのか？				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	14	命が終わる場面での倫理学的問題 まとめ				講義時に復習課題と予習内容を指示する			
	15	まとめ							
評価方法	(1)リアクションペーパーの提出 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○				80%		
	リアクションペーパー	○			○		20%		
履修上の注意	授業中に発言を求めたり、生徒同士での議論を行ったりするので積極的な参加が求められる。自身や他者の意見がどのような根拠に基いているのかを意識すると議論が行いやすい。倫理的な判断(「○○がよい」、「××をすべき」)を行う時、自分の判断がどのような根拠や価値観に基いているのかを反省することが問題理解の助けとなる。学生の理解度や興味関心に応じて、授業内容は臨機応変に対応する。								

科目名	統計学						
科目名(英)	Medical Statistics						
単位数	2		時間数	30時間		担当者	高橋 義文
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	統計学は、実験で得られたデータを客観的に解釈するために必要な知識である。本講義では、統計学で用いられる様々な分析方法を学ぶとともに、実際にデータを用いて分析して貰います。本講義終了時には、基本的な統計学の知識・技術を皆さんが身に着けていることが目標です。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				統計学で用いられる様々な分析方法を説明できる。	
	○	○				データを用いて分析を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	配付資料 参考文献：統計学教育研究会編(2006)『らくらく統計学』, ムイスリ出版,						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	統計データの整理				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	標本分布の値の特性値				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	2次元データの特徴を表す特性値				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	期待値と分散				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	標本平均の分布				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	標本分散の分布				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	点推定と推定量の望ましい性質				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	母平均の区間推定(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	母平均の区間推定(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	仮説検定の基本的な考え方				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	平均値に関する仮説検定(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	平均値に関する仮説検定(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	分散に関する仮説検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	度数・比率についての検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意	電卓を持参すること						

科目名	情報処理						
科目名(英)							
単位数	2		時間数	30時間		担当者	谷口 久美子
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を学習し、レポート・発表会資料等の作成時に活用することができる。文章の入力に関して、5分間で200字以上(3級レベル)の文字入力ができる。						
授業形式	講義: △		演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		キーボード入力が正確でスピーディに行えるようになる。(5分間で200字3級レベル程度以上)	
	○	○	○	○		Wordを使用してレポートや論文が作成できるようになる。	
	○	○	○	○		Excelを使用して表計算機能ができるようになる。	
	○	○	○	○		PowerPointを使用してスライド・資料作成ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:30時間でマスター office2019 実教出版企画開発部						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、Windowsの基礎、入力速度チェック				入力練習・復習	
	2	Wordの基礎、文字入力、編集、保存				入力練習・復習	
	3	書式設定、画像、SmartArtグラフィック				入力練習・復習	
	4	表、ページ罫線、タブ				入力練習・復習	
	5	ワードアート、段組				入力練習・復習	
	6	Word復習テスト・他				入力練習・復習	
	7	Excelの基礎、文字・数値の入力、表作成				入力練習・復習	
	8	表作成、四則演算、関数(SUM,AVERAGE,MAX,MIN)				入力練習・復習	
	9	絶対参照、関数(COUNT,COUNTA,IF)				入力練習・復習	
	10	データ分析(並べ替え、オートフィルタ)、グラフ作成				入力練習・復習	
	11	Excel復習テスト・他				入力練習・復習	
	12	キーボード入力の記録会、PowerPointの基礎				入力練習・復習	
	13	スライドの作成、スライドの書式設定				入力練習・復習	
	14	画像等の挿入、画面切替え、アニメーション、リハーサル、資料の作成				入力練習・復習	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記/実技)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記/実技)	○	○	◎	○		60%
	小テスト	○	○	◎	○		40%
履修上の注意							

科目名	コミュニケーション学						
科目名(英)	communication skill						
単位数	2		時間数	30時間		担当者	高柳 希 森 朋香
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中に発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する力を身につける。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解することができる	
	○					“コミュニケーション”に関して自ら考え、物事を進めていくことができる	
	○		△			多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考することができる	
テキスト・教材 参考図書	宮原哲:新版 入門コミュニケーション論 松柏社 参考文献:末田清子・福田浩子:コミュニケーション学 松柏社 大森武子・大下静香・矢口みどり:仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版(株) 山口美和:PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コミュニケーション概論 コミュニケーションとは何か				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	2	コミュニケーション基礎① メッセージの種類				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	3	コミュニケーション基礎③ 様々な能力				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	4	対人コミュニケーション① 会話のスタート				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	5	コミュニケーション基礎② ノイズの影響				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	6	対人コミュニケーション② 立場と認識				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	7	対人コミュニケーション③ リスニング				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	8	対人コミュニケーション④ 質問と連想				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	9	個人内コミュニケーションと自己概念				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	10	報告・連絡・相談				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	11	対立処理				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	12	パブリックコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	13	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	14	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	15	まとめ				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
評価方法	(1)授業の中で行動習熟度を確認する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	コミュニケーション行動習熟度	◎	◎	◎	○		20%
	レポート	◎	○				10%
履修上の注意							

科目名	社会人基礎力講座 I (GCB I)									
科目名(英)										
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	徳島 欽子 老川 良輔		
実施年度	2020年度			実施時期	前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生									
授業概要	医療従事者として基礎となる、感謝心と思いやりの心を学ぶ。 医療従事者としての正しい言葉使い、社会人としてのマナーを学び社会人基礎力向上を目標とする。 また医療人としてチーム医療を取るためのコミュニケーション能力を獲得することを目的とする。									
授業形式	講義: ○			演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○			○		グローバル・シティズンとは何かを理解し、自分が思われた環境にめることに感謝することができる。				
	○			○		仲間を大切に、共同(協働)の気持ちを持つことの重要性を考え、気づくことができる。				
	○					医療従事者として、正しいことば遣いを理解することができる。				
			○			医療従事者として、立ち振舞の基本と応用を実践することができる。				
	○					チーム医療の中でより良いコミュニケーションを取るためのマナーを理解できる。				
テキスト・教材 参考図書	1. GCB I テキスト 2. 教科書:実社会で求められるビジネスマナー(専門教育出版)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	グローバル・シティズンを目指す・「協働」の態度を持った学生生活					教科書にて復習			
	2	よりよい人間関係の構築に向けてーモラル・ルール・マナーの重要性ー					教科書にて復習			
	3	マナーの本質・相手に良い印象を与える・相手に敬意を表するー					教科書にて復習			
	4	グローバル・シティズンとしての日常					教科書にて復習			
	5	グローバル・シティズンとしての目標					教科書にて復習			
	6	接遇の五原則・自己紹介					教科書にて復習			
	7	言葉遣い					教科書にて復習			
	8	言葉遣い					教科書にて復習			
	9	言葉遣い					教科書にて復習			
	10	立ち居振る舞いの基本と応用					教科書にて復習			
	11	電話応対					教科書にて復習			
	12	電話応対					教科書にて復習			
	13	来客応対					教科書にて復習			
	14	手紙の書き方・冠婚葬祭					教科書にて復習			
	15	マナー一般					教科書にて復習			
評価方法	(1)レポート 50(%) (2)定期試験 50(%) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	◎				50%			
	小テスト	◎	○		◎		50%			
	宿題・レポート									
	発表・作品									
履修上の注意										

科目名	解剖学										
科目名(英)											
単位数	1				時間数	30時間		担当者	佐藤 敦子		
実施年度	2020年度				実施時期	前期		実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 1年										
授業概要	基本的な解剖学用語を学ぶ。人体を構成する細胞・組織・器官系の概要、特に言語聴覚士として理解が必要とされる構造を学習する。人体各部の構造を機能と関連付けて理解する。										
授業形式	講義: ○			演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				骨・関節・靱帯に関する構造、部位の名称、特徴を理解できる。					
	○	○				骨格筋の構造、頭部・顔面・体幹・上肢・下肢の位置や名称を理解できる。					
	○	○				内臓諸器官の名称、特徴を理解できる。					
テキスト・教材 参考図書	教科書:1.理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店 2.あたらしい人体解剖アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献:ブルーバックス 新しい人体の教科書(上・下)/山科正平										
授業計画		授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	人体の構成、解剖学用語、細胞の構造と働き					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	2	組織学総論:上皮組織、支持組織(結合組織、血液)					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	3	神経系(総論):神経組織、神経系の発生					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	4	骨と関節(総論):軟骨組織、骨組織、関節の形状					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	5	筋系(総論):筋組織、骨格筋の特徴					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	6	循環器系①:心臓、動脈系					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	7	循環器系②:静脈系、リンパ系					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	8	呼吸器系:鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	9	消化器系①:口腔、食道、胃、小腸、大腸、					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	10	消化器系②:肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	11	泌尿器系:腎臓、尿管、膀胱、尿道					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	12	生殖器系:男性生殖器系、女性生殖器系					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	13	内分泌系:人体の発生					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	14	感覚器系①:皮膚、味覚器、嗅覚器、聴覚器					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
	15	感覚器系②:平衡覚器、視覚器					授業に該当する教科書の部分について復習すること				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	○	○				100%				
履修上の注意											

科目名	生理学						
科目名(英)	Physiology						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	坂口 博信
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	医師として病院勤務
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	人体についての基礎知識は医療に携わるひとには欠かせない。生理学は、人体の生命現象の仕組み(機能)を理解するための学問であり、医学の中で、最初に学ばねばならない基礎中の基礎となる科目である。本講義では、人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく。						
授業形式	講義: ○		演習:		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる	
	○	○				人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:生理学トレーニングノート 医学教育出版						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	生理学序論、細胞と内部環境					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	2	神経系(活動電位、シナプス、自律神経)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	3	血液					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	4	免疫					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	5	循環器(心臓)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	6	循環器(血圧)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	7	呼吸器					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	8	呼吸器					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	9	消化器					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	10	消化器					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	11	腎・泌尿器					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	12	腎・泌尿器(酸塩基平衡)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	13	内分泌					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	14	生殖					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名		基礎医学講座Ⅰ							
科目名(英)									
単位数	1	時間数	30時間	担当者	①原田 芳美 ②井本 理美				
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	①作業療法士として病院/訪問リハで勤務 ②作業療法士として病院/デイケアで勤務				
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年								
授業概要	・人体の構造・機能について、骨標本や模型等を利用して名称や位置関係を理解しながら覚える。 ・解剖学、生理学、運動学の授業と関連させながら対象範囲の国家試験問題を実施する。 ・各項目で確認テストを実施して、学生自身に理解度を振り返ってもらう。 ・授業範囲の国家試験対策ノートを作成する。								
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	△	実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○		○		骨・関節・筋の名称、位置、構造を説明することが出来る。			
	○	○		○		各臓器の名称、構造、機能を説明することが出来る。			
	○	○		○		授業内容に沿った作業療法士国家試験の問題を解答し説明することが出来る。			
	○	○		○		授業の範囲において国家試験対策に活用できるノートの作成することが出来る。			
テキスト・教材 参考図書	教科書:1麻見直美, 川中健太郎:栄養科学イラストレイテッド運動生理学 羊文社 2.竹内修二:解剖トレーニングノート 医学教育出版社 3.竹内修二:生理学トレーニングノート 医学教育出版社 4.あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達雄(訳)メディカル・サイエンス・インターナショナル社 5.中村隆一, 齋藤宏:基礎運動学 医歯薬出版株式会社								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	コースガイダンス 骨格系Ⅰ～骨の各名称～(上肢)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	2	骨格系Ⅱ～骨の各名称～(下肢・骨盤性差)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	3	骨格系Ⅲ～骨の各名称～(顔面・体幹)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	4	骨の連結(関節の名称・形態・運動方向)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	5	代謝と栄養Ⅰ(栄養素・糖質代謝・脂質代謝・蛋白質代謝) ・小テスト				小テスト範囲の復習。教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	6	代謝と栄養Ⅱ(基礎代謝とエネルギー代謝)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	7	循環器Ⅰ(各部名称と機能)・小テスト				小テスト範囲の復習。教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	8	循環器Ⅱ(国家試験問題演習／解答発表)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	9	呼吸器Ⅰ(各部名称と機能)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	10	呼吸器Ⅱ(国家試験問題演習／解答発表)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	11	消化器Ⅰ(各部名称と機能)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	12	消化器Ⅱ(国家試験問題演習／解答発表)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	13	泌尿器・内分泌器Ⅰ(各部名称と機能)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	14	泌尿器・内分泌器Ⅱ(国家試験問題演習／解答発表)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	15	まとめ(前期の振り返り)・小テスト				今までの授業資料のまとめを復習しておく。 小テスト範囲の復習。			
評価方法	(1)各項目の内容の国家試験対策ノートを作成する。(2)小テスト(筆記)を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験								
	小テスト	◎	◎				70%		
	宿題・レポート	◎	◎		○		30%		
	発表・作品								
履修上の注意	定期試験は実施せず、全3回の小テストと国家試験対策ノート提出を実施し成績評価をする。								

科目名	一般臨床医学						
科目名(英)	Clinical Medicine						
単位数	2		時間数	30時間		担当者	安藤 廣美
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	医師として病院勤務
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の概念や基本的な診断・治療 について学ぶ。また代表的な疾患についての理解を深める						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことができる。	
	○	○		○		医学の歴史と体系を説明できる。	
	○	○		○		医療人として倫理観を持つことができる。	
	○	○		○		疾病の構造を説明できる。	
	○	○		○		診断の意義を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学概論／日野原重明／医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	医学の歴史と体系1: 医学の起源、古代の医学				教科書の予習をしておく。	
	2	医学の歴史と体系2: 中世の医学、近世の医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	医学の歴史と体系3: 20世紀以降の医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	医学の歴史と体系4: 我が国における医学の発達のすがた				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	医学の倫理1: 医学概論で何を学ぶか、医学とは何か				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	医学の倫理2: 人間の生命を考える、病気と医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	医学の倫理3: 医学とリハビリの実践のために、死への対応				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	生体の恒常性と健康: 健康・病気・医学の体系				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	疾病構造の変化と医学の変貌: 新しい医療システム				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	病気と診断学1: 病気の原因				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	病気と診断学2: 病気による身体の変化				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	病気と診断学3: 病気の診断				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	病気と治療学: 病気の治療とリハビリテーション				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	救急医療・疾病予防: 病気の予防				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意							

科目名	作業療法概論						
科目名(英)	Introduction to Occupational therapy						
単位数	2		時間数	30時間		担当者	竹中 祐二
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院・福祉施設で作業療法士として勤務
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	作業療法を概観し、その理念、定義、歴史、具体的実践を学び、医療福祉の中での作業療法の位置付けを知る。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法の理念、歴史について説明できる	
	○	○				作業療法士が関わる領域や時期について説明できる	
	○	○				主な作業療法の領域における専門性について説明できる	
	○	○				作業療法士に求められる資質や適性について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:二木淑子、能登真一編:標準作業療法学 作業療法概論、第3版 医学書院 参考文献:長崎重信編:作業療法学ゴールドマスターテキスト、作業療法概論、改訂第2版、メジカルビュー社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	作業療法とは				教科書の予習をしておく。	
	2	作業療法の歴史				教科書の予習をしておく。	
	3	作業療法の歴史				教科書の予習をしておく。	
	4	作業療法の領域				教科書の予習をしておく。	
	5	作業療法の理論				教科書の予習をしておく。	
	6	作業療法の教育体系				教科書の予習をしておく。	
	7	医療倫理と作業療法士に求められる資質・適正				教科書の予習をしておく。	
	8	多職種連携協働について				教科書の予習をしておく。	
	9	EBMと作業療法士				教科書の予習をしておく。	
	10	作業療法の実践過程				教科書の予習をしておく。	
	11	作業療法の思考過程				教科書の予習をしておく。	
	12	身体機能分野における作業療法の実践				教科書の予習をしておく。	
	13	精神機能分野における作業療法の実践				教科書の予習をしておく。	
	14	発達過程分野における作業療法の実践				教科書の予習をしておく。	
	15	高齢期分野における作業療法の実践				教科書の予習をしておく。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					70%
	小テスト	◎					30%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	基礎作業学実習Ⅰ						
科目名(英)	Occupation Based OverviewⅠ						
単位数	4		時間数	60時間		担当者	早川 由加里
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	建施設にて作業療法士として
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生						
授業概要	作業療法士が治療として作業活動を用いる際に必要とする、作業の基本的な知識・技術を学ぶ。主に実習形式で作業を体験することで、自分自身そして周囲環境への理解も深めながら、最終的には応用して用いることが出来る様になることを目標とする。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		作業療法で用いる様々な作業に必要な物品について、それぞれの知識や使用する際の技術・注意点について説明ができる。	
	○	○		○		各作業を遂行する上で必要な身体的および心理的機能を説明できる。	
	○	○		○		各作業を遂行する上での周囲の人的および物理的環境との関係を説明できる。	
	○	○		○		グループワークを通して自分自身についての理解を深める。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル資料 長崎重信 監修:作業学 改訂第2版, 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト2, メジカルビュー社, 2015. 中村春基, 他編:レクリエーション改訂第2版 社会参加を促す治療的レクリエーション,三輪書店, 2004.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、紙細工(講義およびグループワーク)				紙細工のレポート作成を行うこと(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時間)	
	2	紙細工(グループワーク)、タイルモザイク(グループワーク)				紙細工のレポートを完成させること(1時間)	
	3	タイルモザイク(グループワーク)				タイルモザイクのレポート作成を行うこと(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時間)	
	4	タイルモザイク(グループワーク)、マクラメ(グループワーク)				タイルモザイクのレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時間)	
	5	マクラメ(グループワーク)				マクラメのレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時間)	
	6	革細工(講義およびグループワーク)				革細工のレポート作成を始めること(1時間)	
	7	革細工(グループワーク)				革細工のレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時間)	
	8	エコクラフト(講義およびグループワーク)				エコクラフトのレポート作成を始めること(1時間)	
	9	エコクラフト(グループワーク)、今までのまとめ				エコクラフトのレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時間)	
	10	レクリエーション(講義・グループワーク)				レクリエーションの作成準備を始めること(1時間)	
	11	レクリエーション(グループワーク)				レクリエーション発表準備を進めること(1時間)	
	12	レクリエーション(グループワーク)				レクリエーション発表準備を進めること(1時間)	
	13	レクリエーション(グループワーク)、レクリエーション(発表)				レクリエーション発表後レポート作成を始める事(1時間)	
	14	レクリエーション(発表)				レクリエーションの発表後面談へ向け、反省会を開くこと(1時間)	
	15	全体のまとめ				プリント・教科書の復習を行い、定期試験へ向けての対策を始める事。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				40%
	レポート・発表	○	○		○		60%
履修上の注意	* 授業内容の順番は変更及び前後する場合がある。						